

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (多文化共生・多様性コース)		訪問国	イギリス	
学校名	静岡県立浜松西高等学校	氏名	下位峻介	学年	2

僕は、公共交通に関する探究で、約3週間、イギリスのロンドンに留学しました。

【探求のきっかけ】

探究活動で「公共交通」というテーマを設定したきっかけは、中学生のときのバス通学の経験から、地元浜松の公共交通について、衰退の流れがあると感じるようになり、問題意識を持ったことです。日本全体では、地方のローカル鉄道やバス路線について、駅をなくす、路線を廃線にするなどの議論がなされていることも多いですが、政令指定都市でもある浜松市は、そのような議論とはかけ離れているように見えるかもしれません。確かに、路線が丸ごとなくなるといった大胆な例は多くはないかもしれませんが、それでも、一人の利用者として、運賃の値上げが相次いでいることや、バスの本数が依然と比較して明らかに減っていることなど、明らかに衰退の流れを感じています。

【留学先の選定】

留学先をロンドンに選んだのは、ロンドンが世界屈指の「バス都市」であるからです。赤い2階建てのロンドンバスは、もはやロンドンという都市の象徴そのものになるほど発達していて、毎日600万人の利用者を輸送しています。人々の移動の多くを「バス」が担っているという点は、浜松市内の公共交通の体制と共通しています。



▲写真が趣味で、現地でも多く撮影しました

【留学先での探究】

現地では、3週間で計80回以上バスに乗り、ホームステイ先と語学学校とを結ぶバス路線の混雑調査を行いました。混雑調査とは、バス路線の区間・時間ごとの乗客数や乗車率、客層、主要な停留所の乗降客数を調べることで、その路線が都市の中でどのような役割を果たしているのかの傾向をつかむものです。今回の探求で実際に調査した路線は、起点と終点のほか、途中にも複数の鉄道との結節点があり、そのほとんどの停留所で乗降客数が著しく多いことから、鉄道とほかの鉄道を結ぶ補完的な役割が強いことが分かりました。また、留学前の事前調査では、地上の鉄道、地下鉄、バス、テムズ川の河川交通といったロンドンの公共交通が、ロンドン交通局という機関により一元的に管理されていることが分かり、このことが鉄道とバスの連携をより深いものとしているのではないかと考察しました。



▲探究で訪れた交通博物館のポスター
乗用車に対するバスの優位性を示す

【留学後の研究】

鉄道とバスの連携という点を地元浜松に活用するための手立てとして目をつけたのが「ミニバスターミナル」構想です。現状浜松市のバスは、浜松駅前のバスターミナルから市内各地に放射状にバス路線が伸びていますが、新しい構想では、浜松駅以外の駅に小さなターミナルを設置し、そこを起点としてさらに郊外にバス路線を設定します。郊外から浜松駅周辺に移動する場合は、一度鉄道駅での乗り換えを挟んで、2種類の交通機関を利用することになります。このような構造の変化により、所要時間や運賃、運行本数といった乗客の「利便性」にかかわる要素にどのような影響が見込まれるか、調査しています。

【ロンドンでの留学生活】

平日は、毎日3時間から4時間程度語学学校に通い英語の学習をして、それ以外の時間は探究活動に充てました。学校の時間は毎日変則的で、朝8時30分頃からお昼までの日もあれば、10時ごろから始まって昼休みを挟む日課、午後から始まって夜終わる場合などもありました。休日は探求活動の他、ロンドン市内の名所を訪れたり、約80km離れたオックスフォードに小旅行に行ったりと、日本ではできない経験をたくさん得られました。

滞在はホームステイで、ホストファミリーのほか、同じ家でホームステイをしていたフランスからの留学生とも、毎日交流することができました。特にホストファミリーは、アンバサダー活動で紹介した折り鶴をはじめとする日本文化やお茶、日本のお菓子などに深い興味を示してくれました。



▲週末に訪れた大英博物館

【留学を終えて】

今回の留学は、これまでで最も大きなプロジェクトだったと思っています。ひとりで飛行機、しかも国際線に乗って外国に渡航し、3週間もの長い間日本の家族や友人と離れて過ごすのは、当然初めての経験でした。それゆえに、留学に行く直前は、「自分の英語で現地の人とコミュニケーションをとれるのか」「現地でトラブルに巻き込まれたりしないか」「入国審査に引っかからないか」など、数々の悩みと不安に駆られました。ロンドンについてころまでは、3週間という期間が途方もなく長いものを感じられました。

それでも、現地で実際に英語を使ったり、リスク管理を行ったりすることで、心にゆとりを持ち、徐々に自分に自信をもって行動できるようになりました。帰り際は、ロンドンを離れたくない気持ちでいっぱいでした。

留学について考えるにあたり、不安に足を引っ張られる機会は必ず訪れると思います。それでもそのすぐ先には、日本には絶対のない数々の経験や濃密な時間が待っています。

自信がなくても問題ありません。心配事も大抵解決できます。

ひとりでも多くの人が、悩みと心配を乗り越えて、留学に旅立つことを願っています。

